

# ANNUAL REPORT 2025

2025年度の活動に関するご報告  
〈2025年4月～2026年3月〉



公益財団法人 **がん研究会**  
JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH

## 「がん克服」という使命に向かって。

創立以来、日本のがん医療をリードしてきたがん研究会。常にがん医療を発展・推進させるべく、診療と研究の両輪を動かし続けています。これはすべて「がん克服をもって人類の福祉に貢献する」という使命を実現するため。そしてこの使命は、どのような状況下であっても決して揺らぐことはありません。これからも、職員一丸となり「がん克服」の実現に向かって歩みを進めて参ります。



がん研究会 理事長  
浅野 敏雄

## 日本初のがん専門機関として、 がん医療の発展に貢献し続ける。

1908年(明治41年)、日本初のがん専門機関として発足した、がん研究会。以来100年以上の永きにわたり、日本のがん研究と医療における主導的な役割を果たして参りました。特に、「がん研究会」の特長である、病院部門と研究部門が一体化した組織を持つという独自性のもと、最先端の研究成果を診療に活かすことで真の意味での患者さん本位の医療を提供し、日本のがん医療の向上に少なからず貢献してきたものと考えております。

昨今においては、新たな診療科や低侵襲治療センターの開設等、体制のますますの拡充を図っております。

社会の変化を意識した一層の進化を重ね、より患者さんに寄り添った医療をお届けする所存です。

がん研究会は、「がん克服」という高い使命に向かって、これからも日本のがん医療の要として、診療と研究の両輪で日々尽力して参ります。

# がん研究会の歩み

## 日本初のがん専門機関 として発足

結核や肺炎が恐れられており、がんがあまり知られていなかった時代に、いち早く「がん撲滅をもって人類の福祉に貢献する」という目標を掲げ、「癌研究会」が発足。創設にあたり、渋澤栄一、桂太郎など、当時の政財界や学会を代表する人物が多数、名を連ねた。

1908  
(明治 41年)

1934  
(昭和 9年)

## がん専門の研究所・ 病院の開設

発足当時より、がん研究と治療の専門施設の建設の必要性を訴え、募金活動を行ってきた。大正天皇をはじめ、多数の方々の協力により、わが国初のがん専門の研究所とその附属病院が西巣鴨に開設された。



## 東京大空襲からの復興

1945年の東京大空襲で全ての施設が焼失したが、翌年には早くも銀座に病院を再興。1949年には、研究所を再建。



1946  
(昭和 21年)

1963  
(昭和 38年)

## 西巣鴨に 附属病院を再興

患者数の増加により、銀座の病院が飽和状態となっていたため、1950年代半ばより西巣鴨の被災建物の復旧工事を開始。1963年に、癌研究会附属病院が完成。



1979  
(昭和 54年)

世界で初めてインターフェロンβ遺伝子の単離に成功。

\*右ページへ

## 有明の地に移転 日本最大の がん専門施設へ



健診センターを拡張。  
脳ドックも週15枠でスタート。

皮膚腫瘍科新設。

厚生労働大臣からがんゲノム医療  
中核拠点病院に指定される。

脳腫瘍外科、直腸がん集学的治療  
センター、頭頸部がん低侵襲治療  
センターを新設。

## 外来治療センター リニューアルオープン



2005  
(平成 17年)

厚生労働大臣から都道府県がん診療連携拠点病院として指定される。

2008  
(平成 20年)

公益財団法人に移行し「がん研究会」に名称変更。  
同年10月には民間初の特設機能病院に認定される。

2011  
(平成 23年)

サテライトラボの本格稼働開始。

2019  
(令和元年)

2020  
(令和 2年)

非汎用リニアック(放射線治療機器)導入。

2021  
(令和 3年)

トータルケアセンター発足。

2022  
(令和 4年)

がん化学療法センターが設立  
50周年を迎える。

2023  
(令和 5年)

ダビンチ(手術支援ロボット)  
5台体制に。

2025  
(令和 7年)

## トータルケアセンターを 集約して移転



## 数字で見るがん研究会

日本を代表するハイボリュームセンター（手術症例数の多い病院）であるがん研究会。  
その実績は、国内トップレベルの手術件数や外来患者数などに表れています。

### 外来延患者数

420,571人

安心して治療に専念できる環境を整え、  
患者さん一人ひとりの思いと向き合っています。

〈1日平均患者数〉  
1,738人

〈初来院患者数〉  
8,699人

〈セカンドオピニオン件数〉  
3,014件

### 外来化学療法件数

39,236件

外来治療センターをリニューアル  
オープンし、より多くの日帰りの  
化学療法に対応しています。

### 放射線治療件数

32,107件

最新型の機器を導入し、より負担の  
少ない放射線治療を実施しています。

### 内視鏡検査・治療件数

16,058件

最先端の機器と熟練の医療スタッフに  
より、検査・治療を行っています。

### 入院延患者数

205,585人

がん専門病院として、国内最大級の  
病床数を誇ります。

〈新入院患者数〉 18,611人

〈平均在院日数〉 10.8日 ※一般病床のみ

### 手術件数

8,594件

ダビンチ  
（ロボット支援下手術）

1,168件

〈婦人科〉  
1,215件

〈乳腺外科〉  
1,317件

〈大腸外科〉  
971件

〈胃外科〉  
396件

〈呼吸器外科〉  
587件

〈肝胆膵外科〉  
548件

### 健診受診者数

25,702人

がん専門医による、がんに特化した  
高品質の検診を提供しています。

### 論文数

923件

多岐にわたる分野の研究成果を国内外  
に発信し、がん医療の発展に貢献して  
います。

〈英文〉 701件

〈和文〉 222件

## がん研有明病院



がん患者さん、ご家族の思いに寄り添いながら、

最善の治療の選択肢を届けたい。

がん研有明病院では、各分野の専門医、看護師、薬剤師、栄養士など

多職種が連携する「チーム医療」の強みを生かし、

患者さん一人ひとりに最適な治療計画を立案しています。

がん専門病院として培った経験と臨床データを基盤に、

新しい技術や知見を取り入れ、

安全で信頼できるがん医療を提供できるよう、体制を整えています。



## 高度化するがん治療に対応できる環境を整備

がん研有明病院では、がん治療を巡る技術革新や社会環境の変化に対応するために、病院機能・フロアの見直しに継続的に取り組んでいます。令和7年度には、外来治療センターを増強したほか、トータルケアセンターの移転・拡充を実施しました。

診療面では外科治療において患者さんへの体の負担を軽減する低侵襲化や内科・外科を組み合わせた集学的治療の標準化など、進化するがん治療への対応を進めています。先進的な臨床研究にも取り組んでおり、令和7年度は5件の先進医療技術が承認されました。

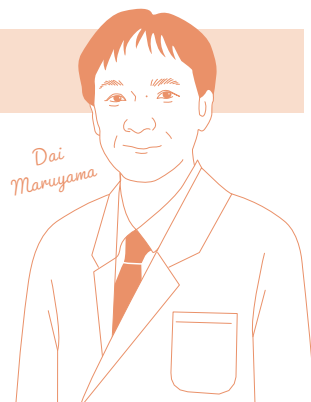
臨床データの活用にも積極的に取り組んでいます。各科のデータを横断的に整理・統合・構造化した独自の「統合がん臨床データベース」を医療情報プラットフォームに展開。この基盤の上で34種の業務支援アプリを開発し、実際に現場で動かしています。

がんの早期発見や予防に向けた取り組みも果たすべき使命です。がん研有明病院健診センターでは各診療科と密接に連携し、各種検査法を組み合わせたがん検診を推進。令和7年度は延べ2万5702人が受診しています。

## 大きく進化している血液がんの治療 多職種が連携して最善の方法を追求

がん研有明病院 院長補佐  
血液腫瘍科 部長

丸山 大



血液腫瘍科ではリンパ腫や多発性骨髄腫、白血病の診療を行っています。

血液のがんというと不治の病とのイメージを持つ人もいますが、近年その治療法は大きく進化しています。分子標的薬や新たな抗がん剤が開発されたり、移植時の免疫拒絶反応を抑える技術が向上したり、患者さん自身の免疫細胞の攻撃能力を高める治療法も登場しています。病態や進行状況によって、治癒や長期のコントロールを目指す環境が整ってきているのです。

こうした治療の方法と可能性が広がる中、血液腫瘍科では当科医師全員と、連携診療科医師、薬剤師、看護師、治験コーディネーターらによる合同カンファレンスを毎週実施しています。各分野のプロがさまざまな角度から意見を出し合い、ときに厳しい議論も行いながら、最善と思われる治療方針を決定しています。がん研究会有明病院は画像診断や病理診断など診断技術が高いことも特徴です。その診断結果を基に、さらに患者さん個々の状況、希望などをまさに多角的に検討して、関係者全員が意思統一した上で治療を進めています。

一方で私たちは、新たな薬剤や治療法を開発するための治験や臨床研究にも積極的に関わっています。全国から多くの血液がんの患者さんが訪れる国内有数のがん専門病院として、治療のさらなる進化に貢献することは大事な役割と考えています。国内の多施設が連携した研究グループに所属し、主導的な立場を務めています。またグローバルな共同研究にも参画して、多様な新規薬剤の治験を継続的に実施しています。さらに、血液腫瘍科では研修を希望する若手医師への教育体制を整備し、次世代の育成も重要なテーマとしています。今後も、診療方法、技術の進化を支え、それを未来につないでいくことで、患者さんに適切かつ的確な診療を提供し続けていきたいと考えています。

### 血液腫瘍科のミッション

● 何よりも患者さんの  
診療が最優先

- 多施設共同研究  
(JCOG、JALSGなど)
- 新薬開発・治験
- 単施設での質の高い  
後方視的研究、試料解析研究

診療

研究

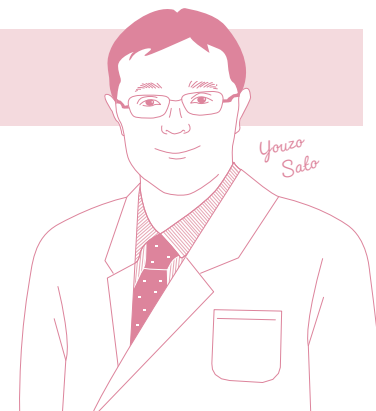
教育

- 次世代の育成
- 研究の機会
- 研究成果の成功体験

## 「低侵襲性」「迅速性」「汎用性」を備えた IVR(画像下治療)は診療の重要な選択肢

がん研有明病院  
超音波診断・IVR部 部長  
超音波検査部 部長

佐藤 洋造



X線や超音波、CT、MRIの画像を使って体内を透かし見ながら、カテーテルや針を挿入して診療を行うIVR(Interventional Radiology: 画像下治療)。そのメリットには体への負担が小さい「低侵襲性」や速やかに診療ができる「迅速性」があります。例えば体内から組織や細胞を採取する生検は、体を切ることなく、処置時間は早ければ10分程度で終了します。また検査ばかりでなく、体内への薬品の注入、溜まった体液の体外への排出、さらにがん自体の治療もできるIVRは、その「汎用性」も大きな特徴です。

がん研有明病院では、例えば肝臓がんの治療において、従来足の付け根から挿入していたカテーテルを、手首から挿入するなど先進的な取り組みも行っています。これにより患者さんは、通常術後4、5時間仰向けの体勢で安静が必要だったところ、すぐに起き上がることが可能になりました。また現在、ラジオ波(高周波)による熱でがん組織を壊死させる治療にも力を入れています。このIVRによるラジオ波焼灼療法は、近年保険適用される臓器などが拡大され、その治療実績が着実に増加。まさに低侵襲な治療として注目を集めています。

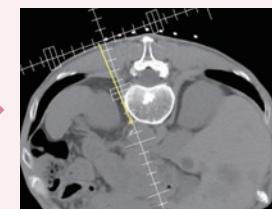
多種多様な場面で活用されるIVRは、がん診療の縁の下の力持ちともいえる存在です。現在、がん研有明病院においても年間2000件を超える実施数があり、活躍の場が広がっています。今後も各専門の診療部門の先生と密にやりとりし、何でも相談し合える関係性・環境をつくることでIVRの利用価値をさらに高めていきたいです。また、患者さん、ご家族をはじめ多くの人に、その用途やメリットを伝えることで、がん診療の重要な選択肢の一つとして知っていただきたいと思っています。

### IVRの様子(内臓神経ブロック)

進行肺癌、難治性疼痛



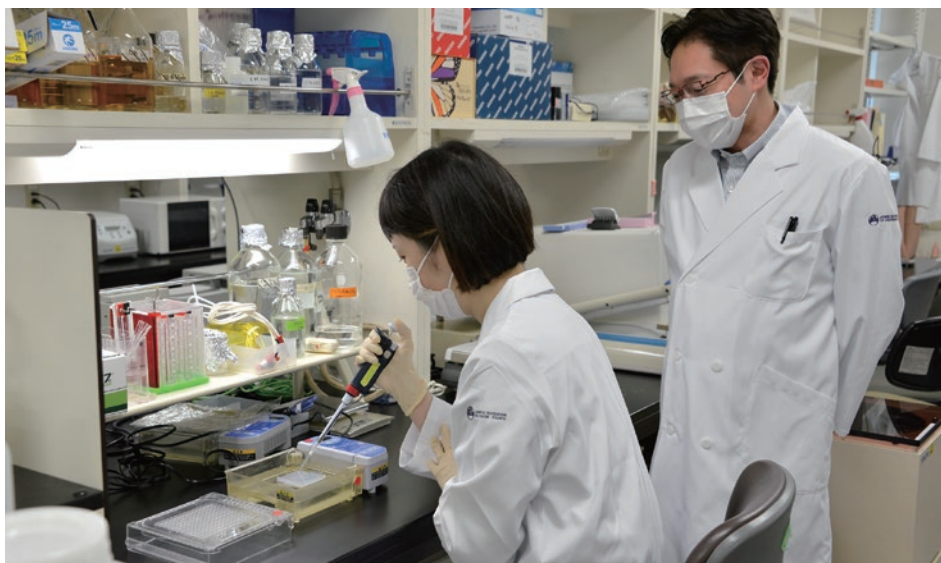
CTを撮像: 穿刺位置を決定



CT透視下で穿刺

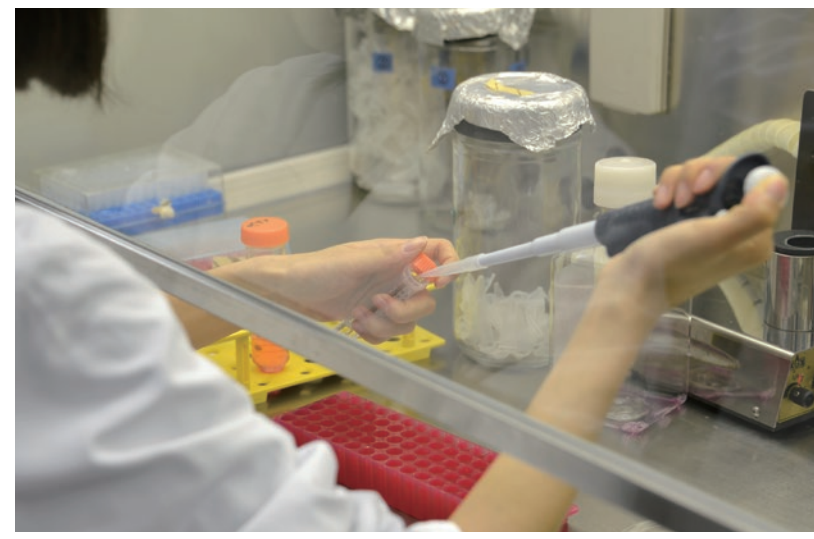


## がん研究所 がん化学療法センター がんプレシジョン医療研究センター



多角的な視点からがんの本質を見極めて、  
新たながん医療を創り出し、がん患者さんへ届けていく。

この理念のもとに、がん研究会では「がん研究所」に加えて、  
開発型研究や橋渡し研究の推進に特化した「がん化学療法センター」  
「がんプレシジョン医療研究センター」の2つの研究センターを設置。  
さらに国内有数のがん医療機関「がん研有明病院」と一体となって、  
基礎から臨床に至るまで、体系的ながん研究を推進しています。



## 革新的な研究を臨床へつなげ、がん治療を一步ずつ前へ

がん研究会研究本部はがん研有明病院との連携のもとで、新たながん医療を生み出すさまざまな研究を進めています。

がん研究所細胞生物部では大腸がんへのKRAS 阻害剤の投与でリボソーム生合成が亢進することを発見。これが結果として薬剤耐性を引き起こす可能性に言及し、リボソーム合成阻害剤を併用する新しい治療法の可能性を示唆しました。また同細胞老化研究部では、老化細胞のリソソーム機能障害とフェロトーシス抵抗性の関連を明らかにし、がんを含む加齢関連疾患の治療戦略の幅を広げています。

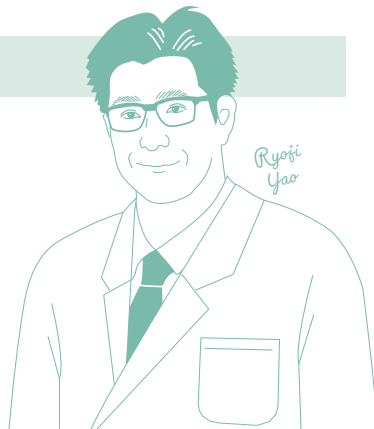
がん化学療法センターでは大腸がん治療薬候補タンキラーゼ阻害薬(RK-582)の医師主導第I相治験が、がん研有明病院で始まりました。また新たな骨肉腫悪性化機構を見出し、その阻害剤を開発。医師主導治験実施に向けた準備も進めています。

外部の研究機関・企業との連携も盛んです。細胞診断部・病理部はベンチャー企業との共同研究で、AIを用いた子宮がんでの細胞診自動診断システムを構築。このほか新たな医薬品や医療機器を実用化していくための部門横断的プロジェクトも進行しています。

## 大腸がんの「細胞状態」を標的に 薬剤耐性を崩す新たな治療戦略

がん研究所 細胞生物部 部長

八尾 良司



分子標的薬の薬剤耐性という「がん細胞が遺伝子変異などで強くなる」イメージがあるかもしれませんが。しかし私たちは「薬が効かないのは、がん細胞が初期胚に近い状態へ「先祖返り」したため」という新しい考えを提唱しています。

着目したのは、KRAS遺伝子変異を持つ大腸がんです。KRAS遺伝子変異はがんを誘導する因子の一つで、大腸がんの約40%で見つかっています。しかし大腸がんはKRAS阻害剤に耐性があることが課題となっていました。

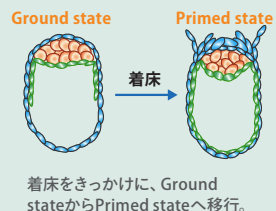
私たちの研究では、がん研有明病院の患者さんから組織をご提供いただき、KRAS遺伝子変異を持つ大腸がんのモデル臓器を構築。そこにKRAS阻害剤を投与したところ、がん細胞が胚の発生初期に見られる「ground state」に似た状態へ誘導される現象を世界で初めて発見しました。

「ground state」とは、合図があればいつでも動き出せるように待機している特殊な状態です。がん細胞はこの状態に移行したことで生き延びていたと考えられます。しかしこの状態は、薬で簡単に崩すことが可能。マウスでリボソーム合成阻害剤とKRAS阻害剤との併用を試みると、腫瘍の縮小を確認できました。

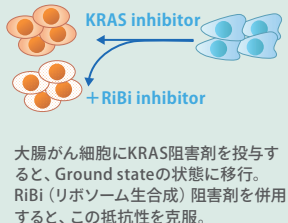
まだ基礎研究の段階ですが、この知見を実際の治療へとつなげられるよう研究を進めています。

### KRAS 阻害剤耐性の新規概念

#### a. 胚盤葉上層



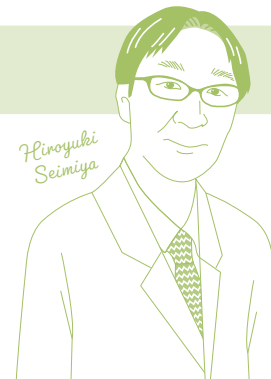
#### b. 大腸がん



## がん研究の新しい治療薬 「タンキラーゼ阻害剤RK-582」を開発

がん化学療法センター  
分子生物治療研究部 部長

清宮 啓之

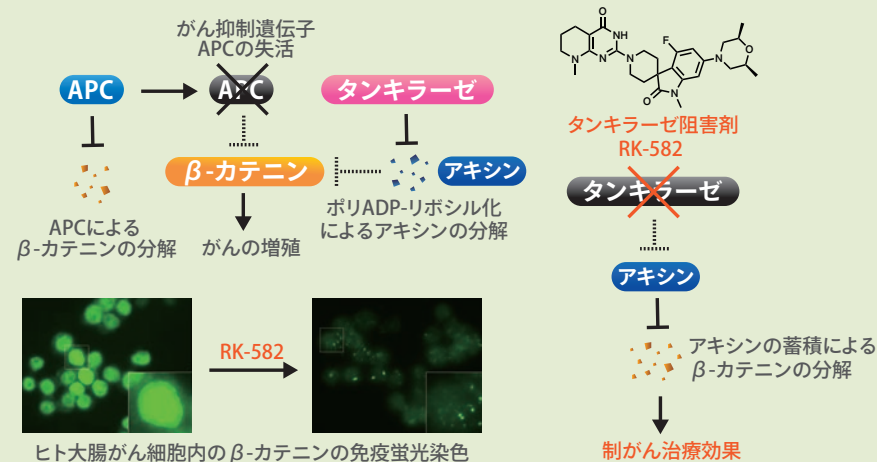


大腸がんの約80%では、がん抑制遺伝子APCの機能が損なわれ、β-カテニンが細胞内に過剰に蓄積することで、がんの発生や進展を招きます。このβ-カテニンが古くから認識されていましたが、薬物がはまり込むような溝（ポケット）をもたないため、創薬のターゲットにすることが難しく、研究は長年「難攻不落」とされてきた、手ごわい領域でした。

そこで私たちはβ-カテニンの抑制因子となるタンパク質「アキシン」に着目。アキシンの分解を促す酵素「タンキラーゼ」の働きを阻害する物質を創製し、マウスでがんの増殖を抑える効果を確認しました。その後の研究で、どのような遺伝子変異がある患者さんなら薬が効きやすいかも分かってきました。またβ-カテニンは免疫から逃れる働きも持っているため、免疫チェックポイント阻害剤との併用など、治療の発展にも期待が持てます。

2025年3月からがん研有明病院の医師と協力して、切除不能な進行・再発大腸がんの患者さんを対象にした医師主導治験（第I相）を進めています。これが承認されればタンキラーゼ阻害剤として世界初の治療薬となる試みです。日本発、そしてがん研オリジナルのこの挑戦が、大腸がんの新たな治療の選択肢となるよう、これからも歩みを進めていきます。

### タンキラーゼ阻害剤によるWnt/β-カテニンシグナルの遮断



がんへの理解が広がるよう、啓発や情報発信に取り組んでいます。



## SNSに関するご寄付のご報告

皆さまには日頃より多大なるご支援を賜り、ありがとうございます。

当会は民間のがん研究・医療機関であり、その運営資金の一部はご寄付に支えられておりますが、多くは当院の患者さんやご家族、そして当会理念にご賛同いただいた企業の皆さまによるご支援です。

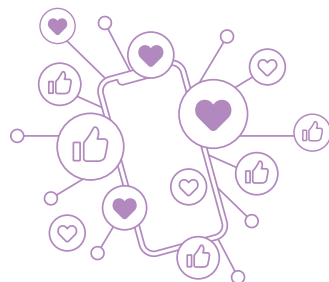
そのような中で、2025年10月、X(旧Twitter)にて投稿された『グエー死んだンゴ』\*に関連し、約2,800件のご寄付をいただきました。そのご寄付者の多くは当会とは今まで関わりのなかった方々にお見受けします。

この投稿は、稀少がんにより22歳でご逝去された、中山奏琉さんによるものです。彼への追悼の想いから広がった寄付のムーブメントは、新聞やニュースに幾度となく取り上げられました。

ネットを見て初めてご寄付をされたという方や、未来へのがん研究を応援したいという方、様々な想いに触れ、当会の基本理念の具現化に向けて決意を新たにされる機会となりました。

今後とも、当会の活動にご理解、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

※『グエー死んだンゴ』とは追いつめられた時などにネット上で使われる俗語で、今回はご本人が生前に投稿予約をされていたものとみられています。



## がんサバイバーの笑顔展を開催しました

がんサバイバーの方々の笑顔と想いが込められたポスター展「がんサバイバーの笑顔展」(LAVENDER RING\*主催)を開催しました。本展示は全国の医療機関・施設を巡回しており、この度がん研有明病院でも開催の運びとなりました。

個性あふれる1枚や、ご家族、または大切な方と一緒に撮影した1枚。さまざまな想いが込められたポスターを214枚展示いたしました。

展示をご覧になった方からは、「笑顔が素敵で、メッセージや服装からどのような方かも伝わり良かったです」「みなさんとても良い笑顔で元気をもらえました！」などの感想が寄せられました。

本展示を通して、あたたかな気持ちを感じていただくと共に、がんサバイバーへの理解が広がるきっかけとなれば幸いです。

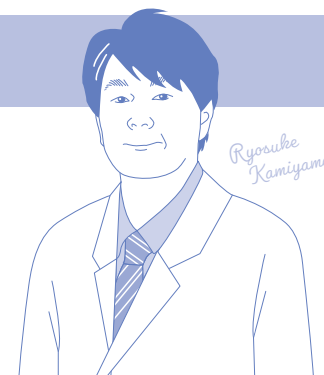
※LAVENDER RING(ラベンダーリング)とは、すべてのがんサバイバーが笑顔で過ごせる社会を目指すプロジェクトです。



## 最先端の手術支援ロボットとチーム医療で頭頸部がんの治療可能性を広げる

がん研有明病院  
頭頸科 医長  
頭頸部がん低侵襲治療センター

神山 亮介



がん研有明病院では「頭頸部がん低侵襲治療センター」を設置し、上部消化管内科と頭頸科の医師が密接に連携しながら、手術支援ロボットや内視鏡を活用した体への負担が少ない治療を推進しています。2025年8月に新型の手術支援ロボット「ダビンチSP」を導入したことで、頭頸部がんの治療は一層進歩しています。

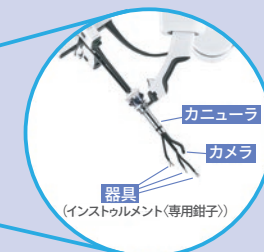
ダビンチSPが画期的なのは、カメラや機器を操作するための管(アーム)を1本に集約した点です。頭頸部がんのロボット支援下手術では口から機器を入れていきますが、従来型ロボットはアームを3本入れるためスペースの制約があり、喉の奥にできたがんの手術は困難でした。しかしダビンチSPはアームが1本で済むので、喉の奥の狭い空間で機器を展開し、複雑な操作が可能です。これにより、下咽頭など喉の深い場所にあるがんに対してもロボット支援下手術を選択できるようになりました。

ロボット支援下手術という選択肢が加われば、放射線治療や化学療法と共に治療計画の広がりにも貢献できるうえ、飲み込み(嚥下)や発声といった患者さんの生活の質(QOL)において大切な機能を温存しやすくなります。

これからも先端技術を取り入れながら、診療科の枠を越えたチーム医療を推進し、患者さんの体にやさしく、安全なロボット支援下手術を追求していきます。

### ダビンチSPサージカルシステム(ダビンチSP)

「ダビンチSPサージカルシステム(ダビンチSP)」は1本のアームに内視鏡と3本の専用鉗子を接続し、これらすべてを1つのカニューラから体内に挿入します。わずか1か所の創だけで、従来と同様の手術を行うこともでき、さらなる低侵襲手術を実現しました。



## がんとの闘いは、皆さまからの あたたかなご支援があってこそ。

がん研究・医療の推進には、それを支える多くの資金が必要となります。

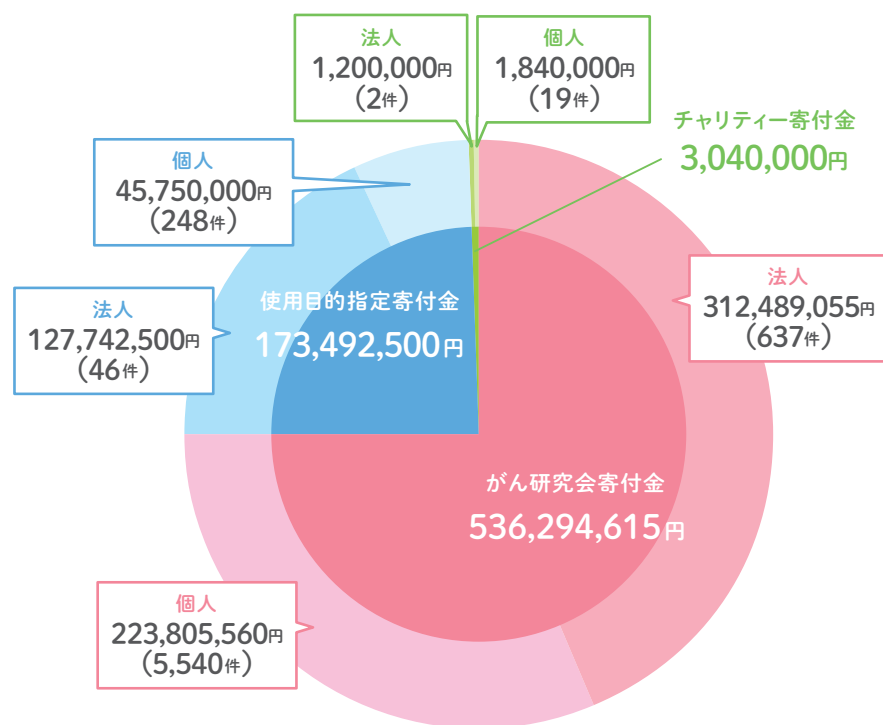
国・地方公共団体等からの運営資金補助のない、

民間経営のがん専門機関である「がん研究会」の歩みは、  
全国の皆様からのあたたかい継続的なご支援により支えられています。

〈2025年度 寄付金収入〉

# 合計712,827,115円

法人：685件／441,431,555円 個人：5,807件／271,395,560円



2025年度 寄付実績内訳

## ¥ 寄付金の使途

### がん研究会寄付金

#### 低侵襲手術のための内視鏡システムの更新

新しい4Kカメラシステムを搭載した内視鏡システムを導入しました。輝度の高さ、印象的な色再現性、細部描写の豊かさ、深い被写界深度などの効果がこのシステムの大きな特徴です。内視鏡システムは、通常の人間の目だけでは見えないものを見えるようにしてくれます。この“目”を用いて、より安全で負担が少なく、根治度の高い手術が可能になりました。

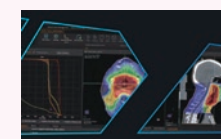


#### 放射線治療計画ソフトウェアの増設

放射線治療を計画するソフトウェアを増設しました。近年当院では、副作用を増加させることなくより強い放射線を腫瘍に照射する治療法の件数が増えており、多数の高精度な治療計画の作成も不可欠となっていました。今回の増設によって、より多くの患者さんに、最適化された高精度な放射線治療を提供することができ、副作用を減らしながら高い治療効果が期待できます。



治療計画を実行する放射線治療装置



線量分布の計画中

#### 超微量分子量分布測定装置の導入

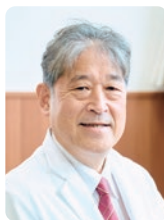
超微量分子量分布測定装置を導入しました。体の中でさまざまな機能を担う分子は、複数の分子が集まってはたらくことが少なくありませんが、その測定は容易ではありません。この解析装置は、極めて少ない試料の中に、いくつの分子が集まっているかを簡便にかつ正確に解析できる機械であり、これまで見過ごされてきた分子の集合について多くの新しい知見が得られることが期待されます。



## 新病院長就任のご挨拶

### ～すべての患者さんへの 適切な医療提供を目指して～

がん研有明病院 病院長 渡邊 雅之



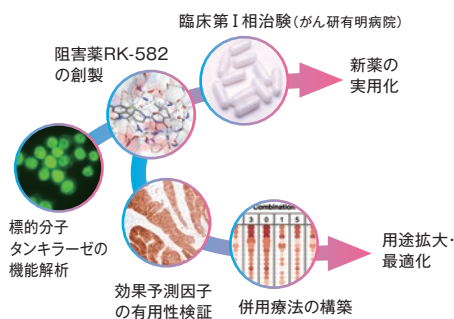
この度、佐野武先生の後任として、4月1日付で病院長に就任いたしました。歴史と伝統あるがん研有明病院の舵取りを担わせていただけること、大変光栄に存じております。

がん研究会の使命は「がん克服をもって人類の福祉に貢献する」ことです。がん研有明病院は、最新の知識と最先端の技術をもって、来院される患者さんひとりひとりに最適の治療を提供することを目指してきました。また、併設される研究所と連携し、新たな治療法の開発に取り組んでいます。新薬が日常診療で使用されるようになるためには、その安全性と有効性を確認するための臨床試験（治験）が不可欠です。当院では、はじめてヒトに投与される薬剤を含めて、数多くの治験を行っています。ひとりでも多くのがん患者さんに最適の治療が届けられるように、全職員一丸となって取り組んでまいります。

がん患者さんご家族は、がんと診断されたときから治療中、治療後に至るまで、多種多様な困難に直面します。これらの課題を解決すべく、当院では2021年に、職種の垣根を越えて支援を行うトータルケアセンターを組織いたしました。この春、同センターは外来部門2階にリニューアルオープンしましたので、お困りの際はお気軽にお立ち寄りください。

また近年、大病院と地域医療機関との役割分担が重視されるようになりました。当院では、再発の危険性の低い患者さんや継続的なフォローが必要な方の日常診療を地域の先生方をお願いする外来適正化プロジェクトを推進しています。これにより、新たにがん治療を必要とされる患者さんをひとりでも多く受け入れられる体制を整えて参ります。

これからも、安全で信頼されるがん医療を提供し続けてまいります。皆様のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



研究本部・病院本部が連携して実施される治験  
（※タンキラーゼ阻害剤創製のイメージ）



2026年3月にリニューアルオープンした  
トータルケアセンター外観

2025年9月

## 外来治療センターリニューアルオープン!



### 外来治療センターとは?

がん薬物注射・点滴治療で通院治療を行う外来患者さんを対象に、抗がん薬による化学療法を行うセンターです。全診療科の患者さんに対する化学療法と治験を担当し、1日平均160名の方が治療に訪れます。

### リニューアルのポイント

がん研有明病院 化学療法部 部長 陳 勁松



#### POINT

2025年9月、5階西病棟（42床）を廃止した跡地に移設・集約し、面積拡張および病床数の増加が実現しました!

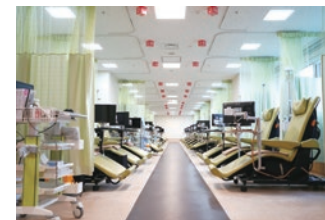
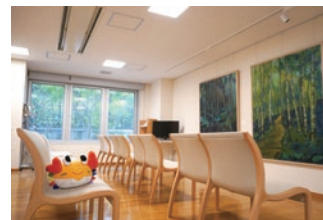
入院病床から外来治療センターへの転換は、「がん治療は通院で行う時代」への変遷を象徴する出来事です。

手術領域では、ロボット支援手術などの低侵襲手術の普及により入院日数が短縮されてきました。薬物療法においても、副作用対策の進歩によって通院で可能な薬剤が増えています。さらに新薬の導入により、より長く生きられる患者さんが増え、通院薬物療法の機会は着実に拡大しています。たとえば胃がんの薬物療法では、この20年で治療数がほぼ倍増し、生存期間の延長と生活の質の改善に寄与してきました。

今回のリニューアルにあたり重視したのは「快適性」と「効率性」です。

長時間の点滴や治験に伴う負担を軽減し、プライバシーにも配慮した環境を整備しました。また、患者さんの声を取り入れたパウダーコーナーも新設しました。

今回の移転は、多くの方々のご支援の賜物です。私たちは、この恵まれた治療環境を患者さんや当会のために最大限活かすことを使命とし、感謝の気持ちを胸に、今後も一層努めてまいります。



## トータルケアセンター（TCC）を移転・集約しました

トータルケアセンター（TCC）は、患者さん・ご家族に、必要な時に必要な支援を届けられる体制を目指して、2021年5月に発足しました。医療連携部と患者・家族支援部で構成されており、それぞれが連携してサービスを提供できる体制を整えています。これまでは院内の数か所に機能が分散していましたが、2026年3月に外来部門2階へ移転・集約いたしました。これまで以上にわかりやすく、多職種が連携をとって患者さん・ご家族に必要な支援を提供いたします。



### 医療連携部

患者さんの初診から、スムーズな入退院、外来への移行、他院との連携を支援します！

地域連携室 / 診療予約室 / 国際医療室  
ベッドコントロール室 / 入退院支援室

### 患者・家族支援部

患者さんやご家族がお困りのことにいつでも対応できる体制を整えています！

がん相談支援センター / 患者相談室  
WOC支援室 / リンバケア室  
サバイバーシップ支援室  
ボランティア支援室 / 患者支援推進室



がん相談支援センター



相談室の様子



アピアランスケアコーナー

### トータルケアセンター長 片岡 明美 先生よりメッセージ

2026年3月23日に外来2階にオープンしたTCCでは、診断から治療後の生活支援までを切れ目なく支える体制をワンフロアで充実させ、「患者参画医療」を推進するとともにACP※や両立支援、アピアランスケア、妊孕性温存などのサバイバーシップ支援にも力を入れてまいります。オレンジ色ののぼり旗と看板0番【ゼロパン】が目印です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



※ACP（アドバンスケアプランニング）：自分らしく過ごすために、これからの治療・ケアについて話し合いを行い、患者さんの意思決定を支援するプロセスのこと

## ご寄付者の声

皆さまからの温かいご支援が「がんとの闘い」の原動力になっています。

初めてがんと診断され、とても不安な中での入院でしたが、皆様とても親切にそしてわかりやすく説明や指導いただきありがとうございました。不安が信頼に変わりあっという間に10年がすぎました。元気が何より、これからも健康に氣をつけ日々すごしていきます。

病室や廊下の窓から見えた屋上庭園に行ってみました。1日目は薄曇りの午後。ドアを開けた途端にさあっと吹き付ける冷やとした風が胸の中を、心の中を吹き抜けていった。2日目はしとしと降る雨の夕方。湿った空気とポタポタ落ちる雨粒が新鮮で感動すら覚えた。3日目は快晴。次々とやってくる大勢の患者さんたちを色とりどりの春の花が出迎える。がん研有明病院に作られた屋上庭園は、医師や看護師やスタッフの方々と同様に、患者さんたちの身体と心を元気にしてくれる欠かせない病院の一部だった。

研究者の皆様の日々の御努力に多大なる感謝を。気持ち程度ではございますが、がん研究の更なる発展を願って。

日々のご尽力に感謝申し上げます。病に苦しむ方の回復に少しでも貢献する活動を期待いたします。心身健康でお仕事されてください。

毎年健診センターでお世話になっています。結果をみてホッとする毎年です。

膵臓がんの手術をしていただいてから、まもなく10年を迎えます。先生方の素晴らしいチーム医療のおかげで、今では普段通りの生活を送ることができています。最近、長年の夢だったエジプト旅行にも行くことができました。治療中は先への不安も大きく、通院のために主治医の先生に悩みや不安を聞いていただき、支えていただきました。「諦めずに生きたい」という思いと、皆さまの温かい支えのおかげで、今こうして元気に日常を過ごせています。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

今年、旧Twitterの投稿をきっかけに単発の寄付をしました。研究や病院の設備維持等には資金が必要だという事もWebサイトを拝見し、継続寄付を決めました。お役に立てれば幸いです。

がんと診断、まさか自分がとただ驚きでした。入院して先生方の的確な治療と共に、先生はじめスタッフの皆さんが、患者に心から寄り添って見守って頂きました事、心から感謝しかありません。また5Fの庭園で過ごした時間、頬を優しく撫でて通る風、穏やかな太陽の下で好きな音楽を聴きながら一時病を忘れる時間、ここで心を整えて又治療を頑張れる場所でした。庭園は多くの患者さんの憩いの場所、未永く利用させていただけるよう願っております。

# がん研究・医療のために皆さまのご寄付をお待ちしています。

## ご寄付の種類

**1回ごとに寄付をする** がん研究会 募金課へのご来訪のほかインターネットや、銀行または郵便局からのお振込にてご寄付いただけます。

**継続的に寄付をする** クレジットカードでの引き落とし、銀行や郵便局からの口座振替でご指定の金額を継続してご寄付いただけます。

■ご寄付のタイミング：①毎月 ②年2回 ③年1回

■お申込金額：1,000円／3,000円／5,000円／10,000円／左記以上の任意の金額

## 古本で寄付をする

お手元にある不要になった書籍（DVD・CD・ゲーム含む）を提携する買取業者に送ることで、ご寄付いただけます。

## ポイントで寄付をする

買い物などで貯まったクレジットカードやポイントカードのポイントを利用してご寄付いただけます。

## ご寄付のお申込方法

### インターネットでのお申込



「がん研究会 寄付」またはQRコードから「ご支援のお願い」ページにアクセス。メニューバーから「ご寄付のお申込み」をクリックし、ご寄付やご支援の方法を選択ください。必要事項をご入力の上、お申込みをお願いいたします。

### 銀行または郵便局からの お振込

専用の「振込用紙（払込取扱票）」に必要事項をご記入のうえ、銀行または郵便局でお振込ください。振込用紙に記載の銀行または郵便局でちょうど銀行口座からお振込いただいた場合は、振込手数料はかかりません。

### 募金課へのご来訪

直接、がん研有明病院内の募金課へご来訪いただいて、現金、クレジットカードでご寄付いただくことができます。

※募金課は1階総合案内奥にございます。

詳しくはがん研究会ホームページでご確認ください。

### お問合せ先



公益財団法人 **がん研究会**  
JAPANESE FOUNDATION FOR CANCER RESEARCH

**募金課**

〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31

TEL : 03-3570-0512 / FAX : 03-3570-0604

E-mail : fund@ml.jfcr.or.jp

がん研究会へのご寄付には税制上の優遇措置が適用されます。